

1 提案の概要

(1) 主張点

- ① 児童の意識に沿った「単元を貫く言語活動」と単元構成の工夫
 - ア 児童の経験から課題を想起させ、位置づけた「単元を貫く言語活動」
 - イ くらべ読みの視点を明確にした単元構成
- ② 児童の学びの文脈に沿った学習問題の設定と構造的な板書の工夫
 - ア 学び方をパターン化することで、児童が主体的に取り組める授業づくり
 - イ 視覚的に理解できるよう、表や色分けを用いた板書の工夫

(2) 授業実践

- ① 児童の意識に沿った「単元を貫く言語活動」と単元構成の工夫
 - ア 児童の経験から課題を想起させ、位置づけた「単元を貫く言語活動」

3年生の時に、理科教材セットを組み立てるのに困ったことがあった児童が多かったことから単元を貫く言語活動として「広告と説明書で見つけたちがいを使って理科教材を読みくらべよう」を設定した。
 - イ くらべ読みの視点を明確にした単元構成

教科書の並びのように、「言葉の使い方や説明の仕方」についてのくらべ読みをはじめに行うのは、難しいと考える。そこで、写真や絵でくらべ方を習得してからの方が学習しやすいのではないかと考え、くらべ読みの順序に配慮した。本単元では①書かれている事柄、②色の使い方・絵や写真の使い方、③言葉の使い方や説明の仕方、④書かれている事柄の順序やレイアウトの順に読み取ることにした。
- ② 児童の学びの文脈に沿った学習問題の設定と構造的な板書の工夫
 - ア 学び方をパターン化することで、児童が主体的に取り組める授業づくり
 - ① 既習事項を確認し課題をつかむ。
 - ② 毎時間の学習課題の設定
 - ③ グループ交流で考えを広げたりまとめたりする。
 - ④ 全体交流で学びを確立する。
 - ⑤ 学んだことを理科教材で確認する。の順で学び合いをパターン化した。
 - イ 視覚的に理解できるよう、表や色分けを用いた板書の工夫

広告と取り扱い説明書の二つを、同時に読んでいながら整理し、理解するのは難しいと考えたので、下記の2つの点を工夫した。

 - ① どの時間も上下二段の表を用いた。
 - ② 広告のちらしに関わることは全てピンクの画用紙を用いた。また、取り扱い説明書にかかわることは全てブルーの画用紙を用いた。また、児童が考えを書く画用紙もその色で統一した。こうした支援で、広告と取り扱い説明書のいずれのことを話し合っているのかが視覚的によく分かった。

(3) 演習

広告ちらし(酸素を出す石)と取り扱い説明書(人生ゲームの遊び方説明書)を読み比べて、目的や意図・相手・書いている事柄・言葉の使い方や説明の仕方・写真や絵の使い方・色の使い方・書かれている事柄の順序やレイアウトの7項目について表にまとめる演習を行った。

2 成果

- ワークシートに①～④の視点を順番に書いておくことで、単元を通しての見通しがもてた。
- 学び方をパターン化したことで、
 - ・ 授業の流れが分かり、見通しをもって主体的に学習に取り組めた。
 - ・ 「〇〇のちがい」という比較の視点が明確になり、比較する力が付いてきた。
 - ・ グループ交流での話し合いを通して、考えが広がったり深まったりした。
 - ・ 理科教材で確認することで、学びを確かなものにしていくことができた。
- 視覚的に理解できるよう、表や色分けを用いることで、広告と取り扱い説明書のどちらのことを話し合っているか、視覚的にすぐ分かった。
- 教科書教材と理科教材を使って学習したので、単元末に児童が持ち寄った「広告」や「説明書」は多種多様であったが、それぞれの目的を考えた上で、その表し方の工夫を見つけることができた。

3 課題

広告と取り扱い説明書の二つを読んでいく時に、二段の表を用いたが、その際に広告が特徴ばかり書かれていることを気付かせたいために、既習事項をピンクの画用紙で隠してしまったので、説明書と比べることができなかった。

単元を貫く言語活動を位置づけた授業づくり
 「広告と説明書を読みくらべて、目的による表し方のちがいを考えよう」(4年)

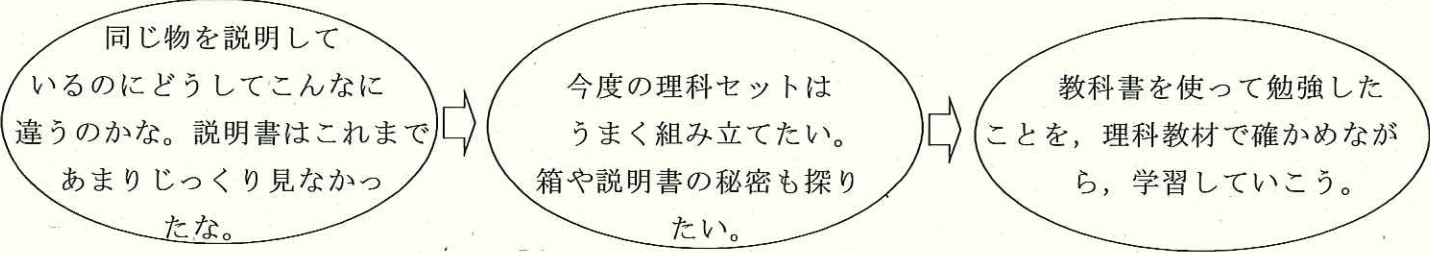
- 主張点**
- 1 児童の意識に沿った「単元を貫く言語活動」と単元構成の工夫
 - ① 児童の経験から課題を想起させ、位置づけた「単元を貫く言語活動」
 - ② くらべ読みの視点を明確にした単元構成
 - 2 児童の学びの文脈に沿った学習問題の設定と構造的な板書の工夫
 - ① 学び方をパターン化することで、児童が主体的に取り組める授業づくり
 - ② 視覚的に理解できるよう、表や色分けを用いた板書の工夫

1 児童の意識に沿った「単元を貫く言語活動」と単元構成の工夫

- ① 児童の経験から課題を想起させ、位置づけた「単元を貫く言語活動」

・教科書教材の「広告のちらし」と「取り扱い説明書」を自分事として読み比べられるか？
 ・3年時に使用した理科教材セットはうまく組み立てられたか？

アンケート結果	○3年の時理科教材を組み立てるのに困ったことがあった・・・36人中30人	
	○その時どうしたか	友だちに聞いた・・・18人(複数回答)
		説明書を見た・・・10人(")
		一人でいろいろやってみた・・・5人(")



単元を貫く言語活動	広告と説明書で見つけたちがいをを使って、理科教材を読みくらべよう。
-----------	-----------------------------------

付けたい力・・・「目的に応じて表し方が違うことに気付く力」

「これから出合う広告や説明書を自分で読めるようになる力」 ← **生きて働く力**

② くらべ読みの視点を明確にした単元構成

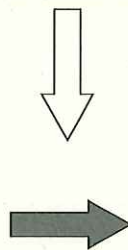
単元構成 (全8時間)

	時	学 習 活 動	評価基準と主な評価方法
一 次	1	理科教材の箱のまわりと説明書を見比べ、どちらも同じ物を説明しているのにどうしてこんなに違いがあるのか疑問をもち、その秘密を探るために、教科書教材で学習するという課題をつかむ。	関・今後の学習の見通しをもち、これからの学習に意欲的に取り組もうとしている。 (発言・行動観察・ワークシート)
二 次 (本時)	2	広告と説明書の <u>目的と書き手の意図</u> を理解し、それぞれ書かれていることがらを読み取る。	読・広告と説明書の目的と書き手の意図を理解し、書かれている事がらを読み取っている。 (発言・ワークシート)
	3	広告と説明書の、 <u>写真や絵の使い方と色の使い方</u> についてその違いを読み比べ、理科教材で確認する。	読・写真・絵・色の観点から広告と説明書の違いを読み取っている。(発言・ワークシート)
	4	広告と説明書の「 <u>特徴</u> 」の表し方について読み比べ、その違いについてグループで話し合う。	読・特徴の表し方の違いを読み取っている。 (発言・ワークシート)
	5	広告と説明書の、 <u>言葉の使い方や説明の仕方</u> についてその違いを読み比べ、理科教材で確認する。	読・言葉の使い方や説明の仕方の観点から、広告と説明書の違いを読み取っている。 (発言・ワークシート)
	6	広告と説明書の、 <u>書かれている事柄の順序やレイアウト</u> について、その違いを読み比べ、理科教材で確認する。	読・書かれている事柄の順序やレイアウトの観点から、広告と説明書の違いを読み取っている。 (発言・ワークシート)
	三 次	7	<u>目的や書き手の意図による表し方の違い</u> について、完成したワークシートを元に学習したことをまとめる。
8	その他の広告や説明書についても、 <u>目的</u> を考え、書かれている事がらを予測した後、表し方の工夫や違いを確認して、一般化を図る。	読・目的によって表し方が違うことを、他の資料等でも確認することができる。 (発言・ワークシート)	

・「言葉の使い方や説明の仕方」は難しい。

写真や絵で比べ方を習得してからの方が、学習しやすいのではないか。

教科書の並び
①書かれている事柄
②言葉の使い方や説明の仕方
③写真や絵の使い方
④色の使い方
⑤書かれている事柄の順序やレイアウト



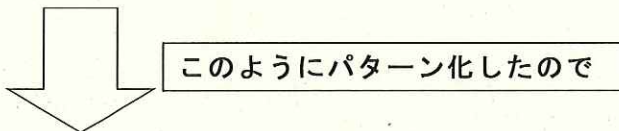
本単元での並び
①書かれている事柄
②色の使い方・絵や写真の使い方
③言葉の使い方や説明の仕方
④書かれている事柄の順序やレイアウト

- ワークシートには①～④の視点を順番に書いておく。→ 単元を通しての見通しがもてる。
- 児童のワークシートを拡大したものを板書に使用。→ 遅れて進む児童への支援にもなる。

2 子どもの学びの文脈に沿った学習問題の設定と構造的な板書の工夫

(1) 学び方をパターン化することで、子どもが主体的に取り組める授業づくり

- ① 既習を確認し課題をつかむ。
- ② 毎時間の学習課題 「〇〇のちがいを見つけて理科教材を読み取ろう」 → 一人学び
- ③ グループ交流で考えを広げたりまとめたりする。(共に学ぶ活動)
- ④ 全体交流で学びの確立
- ⑤ 学んだことを理科教材で確認(活用)



- ◎ 授業の流れが分かり、見通しをもって主体的に学習に取り組めた。
- ◎ 「〇〇のちがい」という比較の視点が明確になり、比較する力が付いてきた。
- ◎ グループ交流での話し合いを通して、考えが広がったり深まったりした。
- ◎ 理科教材で確認することで、学びを確かなものにしていくことができた。

① 「絵や写真や色の使い方」のちがいを見つけて、
理科教材を読みくらべよう。



② 「はかるくん」の「特ちょう」のちがいを見つけて、
理科教材を読みくらべよう。



③ 「言葉の使い方」や「説明の仕方」のちがいを見つけて、
理科教材を読みくらべよう。



④ 書かれている事がらの「順じょ」や「レイアウト」の
ちがいを見つけて、理科教材を読みくらべよう。

毎時間の学習課題

(ワークシートから)

「〇〇のちがい」というのが
本時比べる視点

「共に学ぶ」活動

友だちの意見をしっかり聞いて
自分の意見とくらべるよ。
もっと聞きたいときは、手を挙
げて発言。



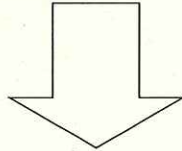


毎時間授業の終末には、理科教材で学んだことを確認。

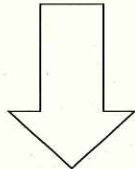
「この説明書にも、見出しが付けられていて、探したいところがすぐ見つけれられるよ。」

(2) 視覚的に理解できるよう、表や色分けを用いた板書の工夫

・ 広告と取り扱い説明書の二つを、同時に読んでいきながら整理し、理解することは難しいのではないか？



- どの時間も上下二段の表を用いた。(上が広告のちらしに関して、下が取り扱い説明書に関して)読み取ったことを箇条書きでまとめていけるようにした。
- 広告のちらしに関わることは全てピンクの画用紙を用いた。取り扱い説明書に関わることは全てブルーの画用紙を用いた。
- 児童が考えを書く短冊もその色で統一した。



このように支援したので

◎ 広告と取り扱い説明書、どちらのことを話し合っているのか視覚的にすぐ分かった。

● しかし・・・

本時では、広告が特徴ばかり書かれていることを気付かせたいために、既習事項はピンクの画用紙で隠してしまったので、説明書と比べることができなかった。



改善点

下の字が見えるようにすれば、既習であっても、説明書と比べることができた。

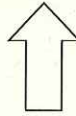
「教科書教材」→「理科教材」→「自分たちが持ち寄った広告や説明書」の流れについて

- ・ 「教科書教材」の「広告のチラシ」と「理科教材」の「パッケージ」の違い
- ・ 「教科書用材」の「取り扱い説明書」と「理科教材」の「組み立て・実験説明書」の違い



同じ物でないのにどう扱うか？

○ 目的が違うので、書かれていることや書きぶりが違うことに気付かせる。



違う物なのに共通して何を学ばせるか？

① 綿密な教材研究が必要

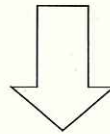
(例) 教科書では、文末を比べるよう提示しているが「敬体」であることは同じ。

しかし、「取り扱い説明書」の文末は「～ください」「～しましょう」等のお願いの言葉が多い。これは「組み立て・実験説明書」にもいえることである。

② 何を、どこで取り上げるかを教師が決めておくこと

(例) 『製品の特徴』を比べるとき、「製品のアップの写真」「小見出し」「詳しい説明文」の書きぶりを押さえるべきだったという意見が出た。しかし授業者はその部分を『レイアウト』の工夫として取り扱うとしていた。

捉え方はいろいろあるので、児童から出た意見に沿いながらも教師側の考えもはっきりしておかなければならない。



このように教科書教材と理科教材を使って学習したので

◎ 単元末に児童が持ち寄った「広告」「説明書」も、多種多様であったが、それぞれの目的を考えた上で、その表し方の工夫を見つけることができた。